中野　寛之 議員

（一問一答方式）

①学校プールのあり方について
②大洲城下町エリアの移動手段と外国人観光客対応について
③子育て支援について
④市立大洲病院について
⑤学習用タブレット端末について

学校プールのあり方について

問 小・中学校の校舎・体育館の耐震化も進み、今後は老朽化している学校プールが課題となる。整備の際は、安全面はもとより、児童生徒の人数が減少していくことも考えると、各学校に１つずつのプールが必要かどうかも検討する余地があると考えるが、いかがか。

答 令和３年１月に策定した大洲市学校施設長寿命化計画では、建設後60年で更新する従来の考え方を見直し、ポンプ施設の更新やプール槽改修を含めた長寿命化改修等を実施することで、建設後80年の使用を目指す基本方針を定めています。

また、計画の中では、施設規模の適正化を図るため、プールの統廃合等により適正な配置及び規模を検討する必要性を明記するとともに、文部科学省の学校施設の長寿命化計画策定に係る手引においても、今後の児童生徒数の減少や水泳授業の目的の変化等を考慮し、適正な規模にしていくことが求められています。

こうした中、小・中学校におけるプールの授業時間は１学年当たり年間10時間程度、利用期間も夏場の約３か月間であるという利用状況や維持管理、費用面なども踏まえて、令和７年度の長寿命化計画の見直し時期には、これまでのように１校に１施設が必要かどうかを検討していきたいと考えています。

大洲城下町エリアの移動手段について

問 城下町エリアでは、近年の古民家再生事業などの取組が高く評価され、観光客も増加している。この結果に甘んじず、さらに一歩進んだ先進的な取組として、エリア内を移動する手段の確保、観光客のモビリティーの確保にも挑んでいくべきと考えるが、いかがか。

答 肱南地区での観光客の増加により、休日には車で来られる方も増加し、交通渋滞、混雑が懸念されています。

特に観光客が集中するお昼前後の時間帯には、大洲まちの駅「あさもや」等に交通誘導員を配置し、交通整理と誘導を行って交通渋滞の緩和を図っているほか、観光施設の指定管理者や周辺の事業者に対しては、自動車利用を控える案内や来客用に民間の駐車場を確保していただくような対応をお願いするなど、地域全体で対策を講じています。

観光地を循環するオートモビリティーやｅ－モビリティーなどの導入は、これら交通混雑、渋滞の緩和や高齢者や観光客等の移動支援、環境負荷の低減など、社会課題の解決に大きな効果が期待されており、国内外でも自動運転の実証実験など様々な検証がされています。

今後は、こうした先端技術の情報収集を行うとともに、他自治体での取組事例なども積極的に調査を行い、導入に関わる環境や条件、企業との連携した取組などを研究しながら、国の補助制度の動向にも注視して検討していきたいと考えています。

学習用タブレット端末の使用状況について

問 全小・中学校に１人１台のタブレット端末を導入し、本格運用して３年目となる。全国の調査では学校によって端末の使用頻度に差があるとの報告もあるが、本市の学校での使用状況と持ち帰り学習での使用状況はどうなっているか。

答 指導者用デジタル教科書を導入している学校は、ほぼ毎時間利用しており、その他の学校でも大洲市学校教育情報化推進計画に基づき、日常的な活用として１日４コマ以上を目標に取り組んでいます。

また、小学校３年生以上で行っている持ち帰り学習の使用状況は、小・中学校20校のうち毎日持ち帰って毎日利用している学校が４校、毎日持ち帰って時々利用している学校が６校、時々持ち帰って時々利用している学校が10校となっており、学校によって頻度の差はありますが、全ての学校において持ち帰り学習を実施しています。